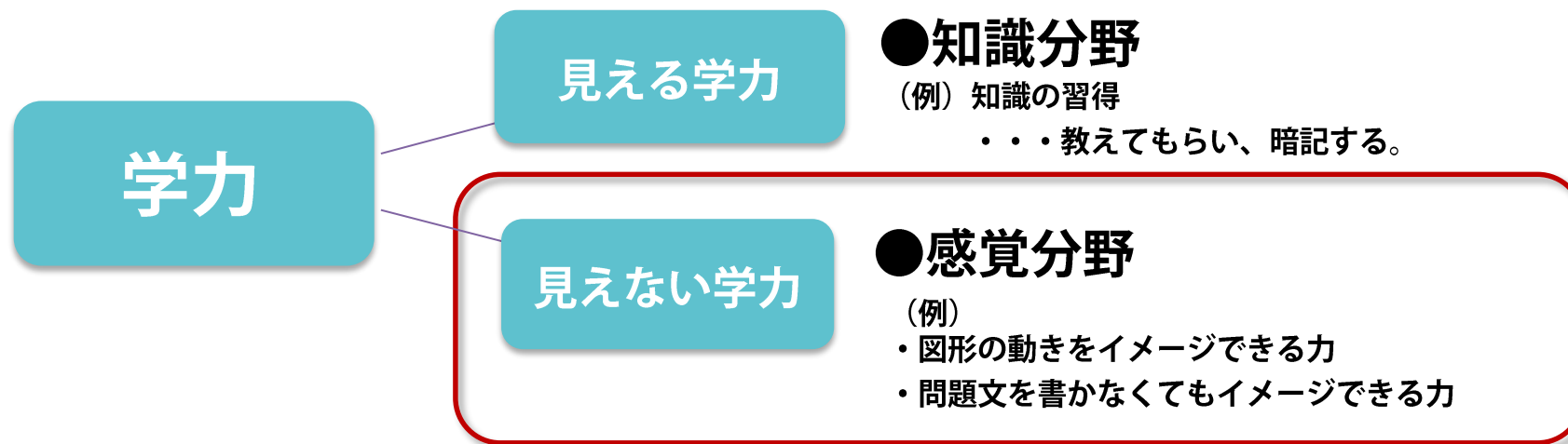


幼児算数教室Jr.B-MATの 理論説明・プログラムの特徴

Jr.B-MATは『見えない学力』を育成するプログラムです

『見えない学力』を育成するプログラムです



●**先天的な能力だと思われてきた感覚分野（見えない学力）を育成します。**
学力は、本来、『見える学力』と『見えない学力』にわかれますが、一般的な学習では、点数で評価できる「見える学力」の育成が中心となり、「見えない学力」は先天的なものとして扱われ、育成されてきませんでした。

●**Jr.B-MATは、将来伸びる子供を育成します。**

Jr.B-MATは、『数』『図形』『思考力』のそれぞれの感覚的分野（見えない学力）を育成することで、将来伸びる子供になる為に必要な土台作りをします。

『見えない学力』を育成するプログラムです

『見えない学力』の指導ポイント

数

- 数を量として認識させます。(量感育成)

図形

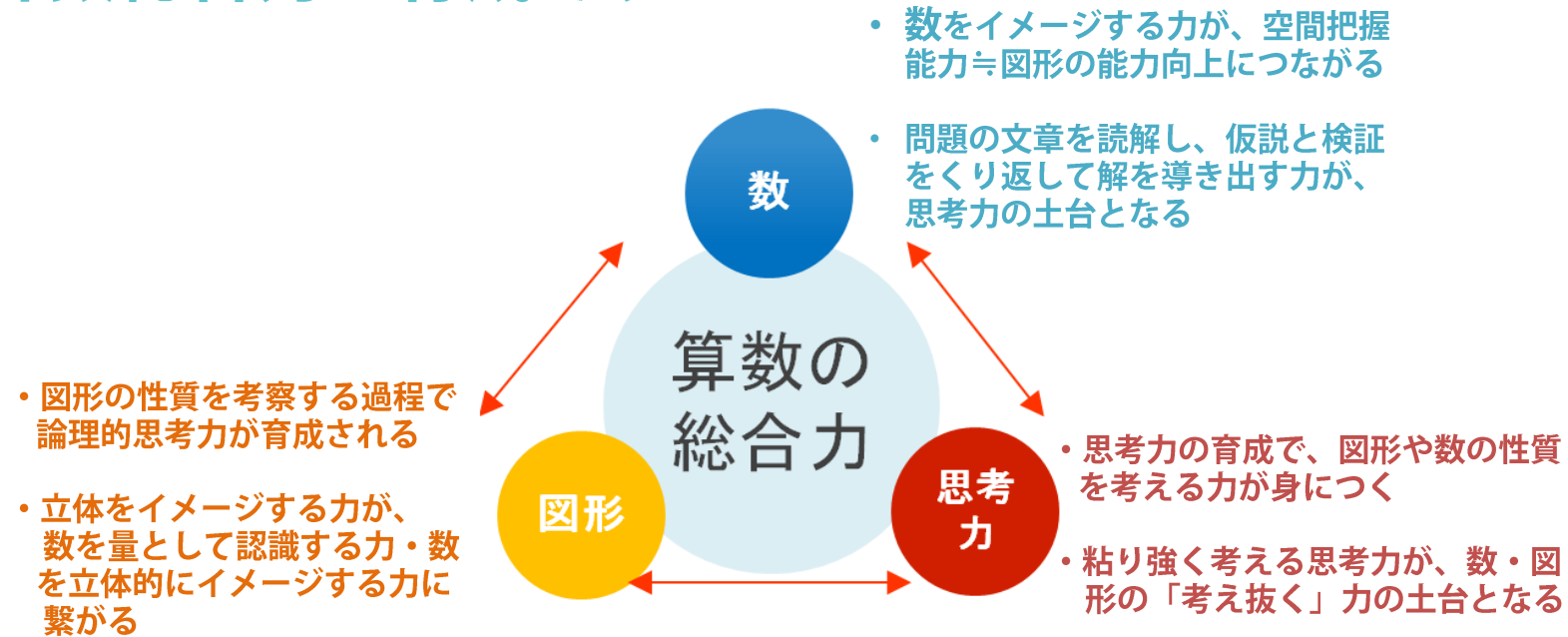
- 空間把握能力育成を中心に育成します
空間把握能力が高まれば、イメージ化能力も高まります

思考力

- 算数パズルを中心に仮説思考力を育成します。
↳ 自分の作戦を考えさせます。
- ねばり強さも育成します。

『見えない学力』を育成するプログラムです

『見えない学力』としての数・図形・思考力育成は算数総合力の育成です



『数』 『図形』 『思考力』 育成の相関図

- 「数」 「図形」 「思考力」 は、相関関係にあり、連動し能力が育成されます。
- 「数」 「図形」 「思考力」 のそれぞれを育成することで、互いに連動しあい、総合的な算数の能力向上に繋がります。

Jr.B-MATで伸びるチカラ①

『数のセンス』

Jr.B-MATで伸びるチカラ① 数のセンスを確実に高めます

数

小学生で最初につまずくのは『数』の理解

数には『順番』としての数と『量』としての数があります。

しかしながら、現在の算数では、これについて明確な区別がされておらず、学習時に子供が混乱し、算数が苦手になるケースが少なくありません。

Jr.B-MATでは、幼児期は『量感育成』を中心に行います

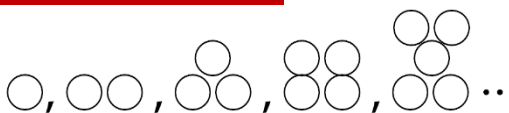
数を量としてイメージし、それを分解・合成できる力（量感）を高めると、様々な数量関係をイメージすることができるようになります。これにより、いわゆる数のセンスが高まり、より高度な問題への対応力も向上します。

幼児期は数を量として認識させる、量感育成トレーニング
中心に行なうべきである

順番としての数

1, 2, 3, 4, 5...

量としての数


(1個), (2個), (3個), (4個), (5個)...

『見えない学力』（感覚分野）を育成できれば、小学生以降の算数は、もう安心です！

Jr.B-MATで伸びるチカラ②

考える習慣とねばり強さ

『考える事』が習慣になる前に『覚える事』が習慣になると、思考力育成の障害になる場合があります。

幼児期は覚える事よりも考える事を中心とした学習をすべきです。また、自ら答えを導き出すプロセスこそが『算数本来の楽しさ』です。Jr.B-MATでは、知識を学ぶ前に、自ら考え、答えを導き出すトレーニングをし、『算数本来の楽しさ』を体感させ『考える事』を習慣化させます。

ねばり強さなくして思考力は育成されません

算数本来の楽しさを実感できれば、解けなくても、答えを導き出すプロセスを楽しめるようになります。また、“できない”ことは悪い事じゃない。一生懸命考えれば、“できなくても”いい、ということは何度も繰り返し、心に刷り込ませれば、簡単にあきらめない子供になります。

Jr.B-MATは、次の考え方をくり返し、子供たちの意識に刷り込みます。

『できなくても、考えた分だけ、かしこくなる！』

「あーでもない、こーでもない」と粘り強く考えるとかしこくなれる！

⇒できることもすばらしいけど、できないことをねばり強く考えることは、さらに素晴らしいことです。



思考力

Jr.B-MATでは『算数本来の楽しさ』を体感し、ねばり強さを育成し、考える事を習慣化させます。

Jr.B-MATで伸びるチカラ③

『仮説思考力』

Jr.B-MATで伸びるチカラ③ 仮説思考力

問題解決能力の土台『仮説思考力』

思考力の中で、最も重要なのが『仮説思考力』です。

仮説思考力とは、仮説→検証を繰り返しながら解決策を考える能力、子どもの言葉でいえば『自分の作戦で考える力』であり、この能力を高めるという事は、より速く多数の仮説がたてられ、また、その検証を素早く行えるようになるという事です。

この能力こそが、算数の問題を解く、とりわけ難しい問題、初めて見る問題を解くために必要な能力です。

また、社会生活における様々な問題を解決するのも、この仮説思考力が土台となります。



良質の **算数パズル** で、幼児から仮説思考力を育成できます

仮説思考力は、幼児でも、良質な算数パズルを用いれば、ゲーム感覚で楽しみながら育成できます。仮説思考力を育成するには、『ねばり強く考える』土台がないと効果が半減してしまいます。

Jr.B-MATでは、ステップを踏んで、『ねばり強く考え』『自分の作戦で考える』ことができるようになるよう、カリキュラムが組まれています。

Jr.B-MATで伸びるチカラ④

『空間把握能力（イメージする力）』

Jr.B-MATで伸びるチカラ④ 空間把握能力（イメージする力）

『図形に強く』『理解力の高い』子を育てます

空間把握能力を育成することで、立体がみえるようになり、イメージ化能力が身につく、すべての理解力が上がります。

これらの能力は算数のみならず、芸術、建築、医学、スポーツなど様々な分野で必要とされる能力です。

パズル道場では、図形を通して空間把握能力を育成していきます。



『平面感覚』育成が、『立体感覚』育成の近道

図形が苦手な子の大半は、平面で、図を回転させたり、対称図形を見比べることも苦手です。

立体は、平面（たて×よこ）に『高さ』を加えた3次元の空間です。

つまり、立体をイメージするには、まず平面感覚が必要ということになります。

パズル道場では、『平面感覚』の育成を行い、その上で、立体感覚を育成していきます。『図形が苦手』な子も、無理なく能力を育成できるプログラムです。

検討の上、何なりとおっしゃって下さいませ。
貴園様とパートナーになれますことを楽しみにしております。